

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200303		
法人名	社会福祉法人紫波会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	紫波町桜町字三本木46-1		
自己評価作成日	平成28年7月1日	評価結果市町村受理日	平成28年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0372200303-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0372200303-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年7月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年は「看取り対応」について職員で話し合い、本人・ご家族の要望があれば希望に添いたいと再確認しています。これをふまえ、所長・事務長・看護部長・施設部長と話し合いの場を設け、グループホームでの看取りの実施に向け「看取り指針」を作成し、運営推進会議や家族会等で説明し、勉強会を実施しています。地域交流では「やすらぎ珈琲館」を年3回実施し、地域の方に気軽に足を運んでもらえるよう取り組んでいます。昨年は毎回30人程度は利用されるようになり、献立を提案してくれる方もいます。さらに今年度から、行政から「認知症地域支援推進員」が開催時間に併せて派遣され、実際に相談者が訪れるなど、より多くの方が利用されるようになっていきます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・運営推進会議が活発に運営され、委員からいただいた多様な意見・提言を、例えば、避難訓練時に、委員や地元の消防協力隊の参加・協力を得ていること、居室の表札の模様紙を、赤の模様紙は車椅子使用の方、黄色の模様紙は転倒の危険のある方、緑の模様紙は歩行の方と、分かりやすくしたこと、等実行している。  
・小・中学生の福祉体験学習の場として、生徒と利用者の温かな交流が継続している。小学校の運動会には、招待状をいただき、来賓のテントの隣りにやすらぎのテント席を準備していただいております。毎年嬉しく参加している。  
・管理者と職員は、日々の業務に様々な工夫をし、質の高い介護サービスの提供に努力している。  
・本日の外部評価の訪問調査員の来訪と役割について、各利用者毎に手紙(「お知らせ」)で周知しており、調査員の挨拶時には、承知していますよというような、穏やかな笑顔で迎えていただき、管理者の細やかな配慮が感じられた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念についてグループホーム内の会議(以下やすらぎ会議)等で確認し合い共有していません。	事業所理念「ゆっくり・一緒に・笑顔で」について、年度初めのグループホーム内の会議(やすらぎ会議月1回)で、ゆっくりは、だらだらではなく利用者のペースにあわせること等、言葉の意味を確認し合い共有している。また、迷った時は理念に立ち返り、検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	行政区長が観覧版を回してくれるので、返しに行ったり、地区の防災訓練に参加し、顔馴染みになっています。また、買物や病院受診など、以前から利用していた施設を訪れることでつながりを感じています。	行政区の観覧板を利用者と一緒に返しに行っている。また、地区の防災訓練時には、リヤカー(やすらぎ号と命名)で参加し、地域の方々が一緒に押してくれている。小・中学生の福祉体験学習の場として受け入れを継続しており、地域とは温かな交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は「やすらぎ珈琲館」において、「認知症地域支援推進員」の相談コーナーを設置したり、「認知症サポーター養成講座」を地域の人向けに場所を提供し開催を予定しています。(予定11月)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて外部評価の講評や課題等を報告し、委員から意見を頂き今後のサービスの向上に活かしています。	運営推進会議は、地区を代表する委員で構成され、避難訓練への委員・地域消防隊の参加、「やすらぎ珈琲館」での障害者事業所の作品展示等、活発で多様な意見・提言を頂いたり、委員や関係機関の協力を得て実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加し、事業所の課題や取り組みについて連携を取っています。	役場には、介護保険の継続申請等で関係部署に出向いている。運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、意見を頂いている。併設の高齢者福祉センター(こもれび)のホールで、「認知症サポーター養成講座」の開催を予定しており、行政とは緊密な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていませんが、拘束による弊害等をやすらぎ会議で年に1度、勉強会を開催し、理解しています。	年に1回は、身体拘束廃止や虐待防止について、やすらぎ会議で管理者により、資料を参考に勉強している。言葉遣いや声の大きさ等、不適切な言動に気づいた場合は管理者が助言している。玄関は夜間施錠している。居室に鍵はあるが、利用者は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最近では今年の1月のやすらぎ会議にて「施設従事者による虐待」というテーマで勉強会を行い、実際にイラつくのはどんな時か、どうすれば気持ち落ち着くかなど虐待につながらないための話し合いを行っています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6月のやすらぎ会議にて、権利擁護・成年後見制度について勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の面接や契約の際に納得していただき、また、疑問点などがあれば伺い、オムツ代・床屋代などは自己負担になることや、通院は施設対応だが、できるだけ一緒に付添いしていただけるようお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員のメンバーに、家族からも参加していただき、家族の立場からも意見を言いやすい雰囲気作りを行っています。介護相談員の受け入れを行っており、相談員がいろいろな話を聴いている様子も見受けられています。	運営推進会議に、委員として家族も参加し、ホームの状況を知る機会としている。また、長寿を祝う会等行事の際には家族会を開き、意見を聞いている。家族に送付している利用者毎の日々の生活状況(介護明細)は、前回の外部評価の意見により、要点を抑えて分かりやすい様工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	やすらぎ会議等で各委員会活動や年間行事等を職員から聞き、企画・実行しています。また、やすらぎだけで決められない時は、部長を通し、所長や事務へ提案しています。最近ではやすらぎ珈琲館の収益でTシャツを購入できないか相談しました。	職員による、行事(花見・家族会、ミニ運動会、長寿を祝う会等)の委員会、印刷の委員会等の各委員会活動で、意見を出し合い実行している。職員の提案で、やすらぎ珈琲館の収益で、前回は珈琲館の接客用エプロンを作成しており、今回は、Tシャツを購入できないか本部に相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、個人の努力している様子や、勤務態度、入居者への接し方等を評価しています。さらに、研修等へも積極的に参加し、仕事に活かせるよう努めています。また、今年度から夜勤手当も高くなり、モチベーションアップにつながっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での職場内研修や、グループホーム協会の勉強会には順番で参加しています。グループホームの交換研修は自分の施設や自分自身のケアを見直す良い機会となっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会のブロック定例会では様々な研修があり、グループワークや調理実習は特に交流が深まっています。今年は8月にブロック内の懇親会を企画しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設への入所は本人の生活が大きく変わるため、予想以上に不穏傾向になりがちです。食事量の確認や居室にばかりこもっていないか、また、帰りたいという訴えはないか、寄り添いながら真意を話してもらえるよう信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やケアカンファレンス時に訴えを確認していますが、普段の会話の中から本音が聞かれることが多いと感じています。「つぶやきノート」に書き留めて、日常のケアに活かしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申請からおよそ1年くらいは待機期間があるので、緊急時は別の施設の空き状態を確認したり、介護保険を利用していない方へは、介護申請の手続きを説明するなど対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	団子つくりやのり巻きつくり、畑つくりの際は入所者の知恵と経験がとても参考になっています。洗濯干しや洗濯たたみほ日常の生活の流れで一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や認知症の進行具合、本人の抱えている病気など、家族に説明し、受診のタイミングや付き添い確認などを行っています。個別外出でも都合が付けば一緒に参加してもらうなど、協力を頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとり馴染みの場所は異なるので、個別外出を実施したり、地元の四季折々のイベントへ出かけています。見学場所で、偶然、家族や地元の人にお会いしたり、病院の待合室やスーパーで会い、会話することもあります。	センター方式による基本情報や、日々の関わりから把握した馴染みの場に、個別外出として家族にも声がけし実施している。お孫さんの結婚式や配偶者の火葬に出席し、親戚との交流が出来る。地元の四季のイベントには全員で出掛け、知人に声掛けされることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に助け合い、席を譲り合っている様子が見られます。そういう時は職員が間に入らずに見守りを行います。施設から出ると特にその傾向が強く、足腰の弱い人に手をつないでる姿も見受けられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1年前に亡くなった方の一周忌に声をかけていただき参加しました。亡くなった本人の好物を準備していただき、食べながら思い出話をしてきました。グループホームから、にいやま荘へ入所した方もいますが、時々面会に行き、声をかけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの過程で、本人、家族の思いを聴き、生活歴をふまえ、施設でできる最大のケアを提供したいと考えています。	利用者毎に担当を決め、入居時のセンター方式によるアセスメントシートの基本情報や日々の関わりの中で、利用者の意向や思いを把握している。また、家族から生活歴等情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートは『センター方式』を使用し、家族等にも協力していただき、本人の生活歴や想いをくみ取っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌を書く際、本人の発した言葉を書くようにし、併せて顔つきや声の大きさ、体の動きも記入し、継続して行うと機能向上につながる場所を見つけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにモニタリング・カンファレンスを行い、必要なケアを提供しています。	介護計画は3ヶ月毎にモニタリングし、全員でカンファレンスを行い、検討結果をケアマネジャーがまとめている。計画は、家族に了承を得ている。状態に変化があった場合は、随時計画の見直しをしている。利用者の思いに沿った、具体的で工夫されたケアの提供がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録表に水分・排便・活動・所在確認・紛失防止のチェックが1枚で済むようにし、毎日の日誌のほかに、職員が周知できる『気づきノート』を活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応しています。外泊の送迎を行ったり、最近では家族からの要望により、孫さんの結婚式に付添いを行いました。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接するにいやま荘でのイベントを見学に行ったり、地元の子供会と交流の機会を設けています。また、隣接するデイサービスの利用者との面会を楽しみにしている方を定期的にお連れしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりかかりつけ医が違いますが、入所前からの医師なのでよく理解しており、安心して診ていただいています。看取り指針の作成時は、協力を依頼し、イザという時に備えることにしています。	入居前からのかかりつけ医を継続しており、緊急時や定期通院も職員が同道し、指導助言をいただいている。看取り指針の作成時は、各かかりつけ医に協力を依頼し、了解を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	7月から看護師が配属となり緊急時に即対応できる体制になっています。。また、にいやま荘の看護師にも協力を得られるので安心です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は年に1・2件あります。病院の相談員から、適宜連絡を頂くので、治療の過程や退院時の日程などやりとりできています。入院前の状態がわかりやすいように記入し退院時は『看護サマリー』を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りに向けた取り組みを実施できるよう、やすらぎの看取り指針を作成しました。昨年は運営推進会議において、ご家族と、運営推進員にも理解できるよう「看取りについて」の勉強会を開催しました。普段の受診の際は、状態をわかりやすく伝え、医師と連携を取っています。	重度化や終末期の対応について、看取りに向けた取り組みを実施できるよう職員で検討し、関係機関や法人の了解を得て、「やすらぎの看取り指針」を作成している。運営推進会議等で、委員や家族に周知しており、改めて看取りの申し込みをした家族もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年3月のやすらぎ・こもれびの避難訓練時に、消防署職員にAEDの使用についてと救急搬送についての注意点等の勉強会を開催しました。また、紫波消防署での救急講習に昨年は、11月15日に1名参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難の際に必要な防災用品を避難訓練の際に見直しを行い、活用しています。6月の夜間避難訓練時には地域消防協力隊にも参加していただき、避難誘導の訓練を行いました。	年3回、避難訓練を実施している。夜間の訓練では、体験して気付くことが多く継続している。推進会議委員の意見で、地域消防隊の協力を得ている。また、地域の防災訓練には、利用者と一緒リヤカー(やすらぎ号)で参加し、住民が押してくれる等の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄面においてはトイレ誘導時もちろん、失禁の際に、大きな声で周囲に知れ渡る事の無いよう配慮しています。また、居室での着替えや、清拭の際も、ドアを閉めるなど、プライバシーの確保に努めています。	利用者との日常的な会話の中で、否定的な言葉や自尊心を傷付けないような対応に留意している。入浴時や排泄時、また、居室での着替えなど、利用者に不快感を与えないよう、プライバシーの確保に十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴・レク活動など、日常生活の中で本人の意思を引き出すような声掛けを行っています。また、認知症でうまく言葉が出てこなかったり、ちぐはぐな発言があっても、問い詰めることはせずに、「はい、いいえ」で答えられるようにするなどしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日程や時間を限定しての日課はないので、体調や天気をみながら、希望があれば外出を行っています。また、個別外出は事前に本人と話し合い、希望の場所へ出かけ、家族もご都合があれば、一緒に参加していただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ブラウスやセーターなど洗濯しにくい素材もありますが、普段は好みの洋服を着て過ごせています。また、行事の際の洋服も持参しているので、外出時やイベントの際は「よそゆき」へ着替えます。ヘアスタイルも、好みを聴きながらカットしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考えたり、スーパーと一緒にいくことで、昔の思い出話をしたり、生活意欲が増すので、できるだけ一緒に行っています。時々ではありますが、選択食やバイキングを行っています。	利用者と一緒に、献立作成や買い物を実施している。献立は、栄養バランスに注意し、法人の管理栄養士の指導を得ている。食材の準備や後片付け等、個々に出来ることを行っている。また、流しソープに、卵焼きや、桃を流し楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック一覧表に摂取した水分量を記載するとともに、排便状況に応じて牛乳やミルクなど乳製品を提供しています。栄養バランスについては、献立を考える際に肉や魚・麺類等、食材が偏らないよう注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。自分で磨ける方は声掛けし、介助が必要な方は手伝っています。毎週火曜日に歯科医師の往診があり、必要な方は治療を行っています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、随時誘導しています。介護度が重度化しても本人が立位可能であればリハビリパンツを着用し、トイレで排泄するよう援助しています。	排泄チェック表を活用し、随時誘導している。また、水分量や運動量、食事に留意し、便秘の予防に努めている。自立が4名、リハビリパンツにパット併用5名で、介護度が重度でも立位が可能な方は、トイレで排泄するよう支援している。トイレは、車いす利用者にも十分なスペースで整備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は生活全般に悪影響を及ぼすことを職員が学び、食事面・水分量・運動量を個々に応じて対応しています。ヤクルトや乳製品も提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴ができるように設定していますが、外出や気分が乗らない時は入浴日をずらしています。また、寝る前に入りたいと希望がある方に夜間浴を実施しています。現在1名が寝る前に入浴しています。	週3回入浴できるよう準備している。現在、就寝前の入浴を希望する方が1名おり、対応している。同性介助を基本にしている。また、入浴しなくていいという方には、言葉や行動で様々な工夫を試みている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は畳の間や、ホール内にソファベットを準備し、皆の気配を感じながら横になって休息できる場所を設けています。また、日中の活動時間を設けることにより、夜間の安眠につなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で出される服薬表をすぐに見れる場所に置き、薬の副作用等も確認しています。また、変更時は、申し送りにて周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等においては、入所時のアセスメントやセンター方式で確認し、調理師をしていた方や、農業をしていた方、学校の先生だった方など、特技を生かせるような関わり方をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度も個別外出を実施しています。本人の希望を優先し、ご家族にも協力を頂いています。また、突発的でも新聞や広告をみてイベントがあれば、見学に行ったり、ドライブに出掛けたりしています。	利用者の希望を聞き、担当者と一緒に個別外出を実施している。家族の協力を得ている。近くの散歩、広報の回覧、食材の買い出し、また、チラシ等を見ての見学等、積極的に外出の機会を多くしている。車椅子の方も事業所の周りを散歩している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方はいません。事務所で預かり、買い物や受診時に持っていき、会計の際、本人に確認をとりながら支払いを行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば自宅へ電話をかけ直接会話をしています。手紙が来ることはめったにないが、毎年、本人の出したい方へ年賀状を送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓が高く、陽射しが入り明るい雰囲気ですが、直接身体に日が当たらないようカーテンを使用しています。また、テレビがホール内に3か所あるので、音が混乱しないようにするのと、職員の会話の音が大きくなりすぎないように注意しています。	共有のホールには、番組観賞用、ビデオ観賞用、小上がり(畳敷き)用と、3台のテレビが設置され、それぞれ活用している。ホールは、その時々でテーマで飾り付けし、訪問時は、沖縄の雰囲気が醸し出されていた。また、多く置かれている鉢花は、利用者が水やりや手入れを手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休む方もいますが、共同スペースとしてホール内を食事スペース、ソファスペース、畳の間の3つのに分けて、それぞれ自分の好きな場所で過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から愛用していたものを持ってきていただいています。大型テレビを持ち込んだ方は、夜間はイヤホンを使用し観ています。	居室には、洗面台、電動ベッド、クローゼット、エアコンが備えてある。寝具、テレビ、衣装ケース、椅子等自分で用意している。家族の写真を飾ったり、居心地良く過ごせるよう支援している。掃除は毎日行っており、自分で掃除される方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内に大きなカレンダーを置き、日付がわかりやすくしています。テレビのリモコンも手の届くところに置き自由に観ることが出来るようにしています。また、畳の間へは手すりを準備し、安全に乗り降りできるようにしています。		